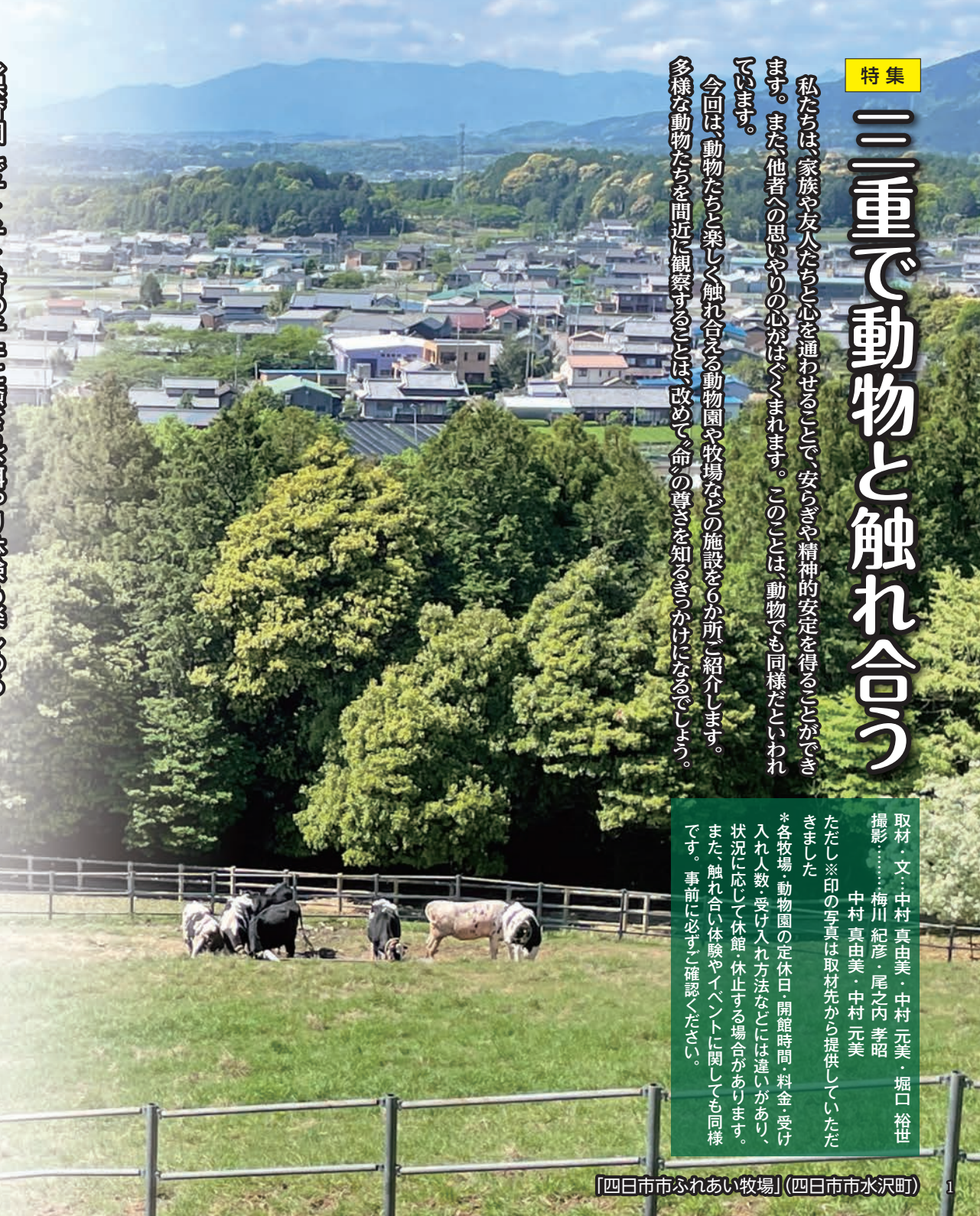


三重で動物と触れ合う

私たちは、家族や友人たちと心を通わせることで、安らぎや精神的安定を得ることが出来ます。また、他者への思いやりの心がはぐくまれます。このことは、動物でも同様だといわれています。

今回は、動物たちと楽しく触れ合える動物園や牧場などの施設をいくつか所ご紹介いたします。多様な動物たちを間近に観察することは、改めて「命の尊さを知るきっかけになるでしょう。」

取材・文：中村真由美・中村元美・堀口裕世
撮影：梅川紀彦・尾之内孝昭
中村真由美・中村元美
ただし※印の写真は取材先から提供していただきました
*各牧場、動物園の定休日・開館時間・料金・受け入れ人数・受け入れ方法などには違いがあり、状況に応じて休館・休止する場合があります。また、触れ合い体験やイベントに関しても同様です。事前に必ずご確認ください。



「保育園ですぐすぐ育つ子牛に癒され、餌やり体験も楽しめる」

四日市市ふれあい牧場

〔四日市市水沢町〕

午前9時から11時ごろの間、「四日市市ふれあい牧場」を訪ねると、放牧中の牛たちの姿が見られます。その多くは、黒白模様のホルスタイン牛。乳量が多いのが特徴の乳用牛です。中には、高い乳脂率の特徴のジャージー牛の姿もあります。のんびりと草を食んだり、くつろいでいる様子を眺めているだけで穏やかな気分になります。また、子牛が多いことにも気付きました。

「四日市市周辺や県外の酪農家から子牛を預かって育てています。いわば、牛の保育園ですね」と話すのは、同牧場を運営管理する「有限会社 四日市酪農」社員の鈴木龍さん。昭和39（1964）年の開設以来、常時100頭前後を預かり、健康で足腰が丈夫な乳用牛に成長するまで、大切に育てているのです。そのた

め、農家からも感謝されることが多いといえます。

傾斜地に位置する牧場には、広大な茶畑や伊勢湾を一望する展望台や、放牧場周囲を一周できる遊歩道が整備されています。入場料も無料のため、ピクニックや散策を楽しむ親子連れの姿が見られます。

来場者の楽しみの一つは、動物たちとの触れ合い体験。現在、乳搾り体験やバ

ター作り体験は休止中（再開時期は検討中）ですが、「小動物ふれあい広場」での餌やり体



牛舎でくつろぐ子牛たち



眼下に広がる茶畑や伊勢湾を眺望



ヤギへの餌やり体験

験は可能です。ヤギやヒツジが夢中になって食べる姿を間近で見ていると、思わず笑顔になります。また、売店（水・木曜日定休）で販売するソフトクリームは、開店前から行列ができるほどの人気。すくすくと育った牛のミルクを元に作られているため、濃厚なのに後味すっきり。おいしい食品は、農業に携わる人々の工夫や努力が積み重なってできることを改めて実感しました。

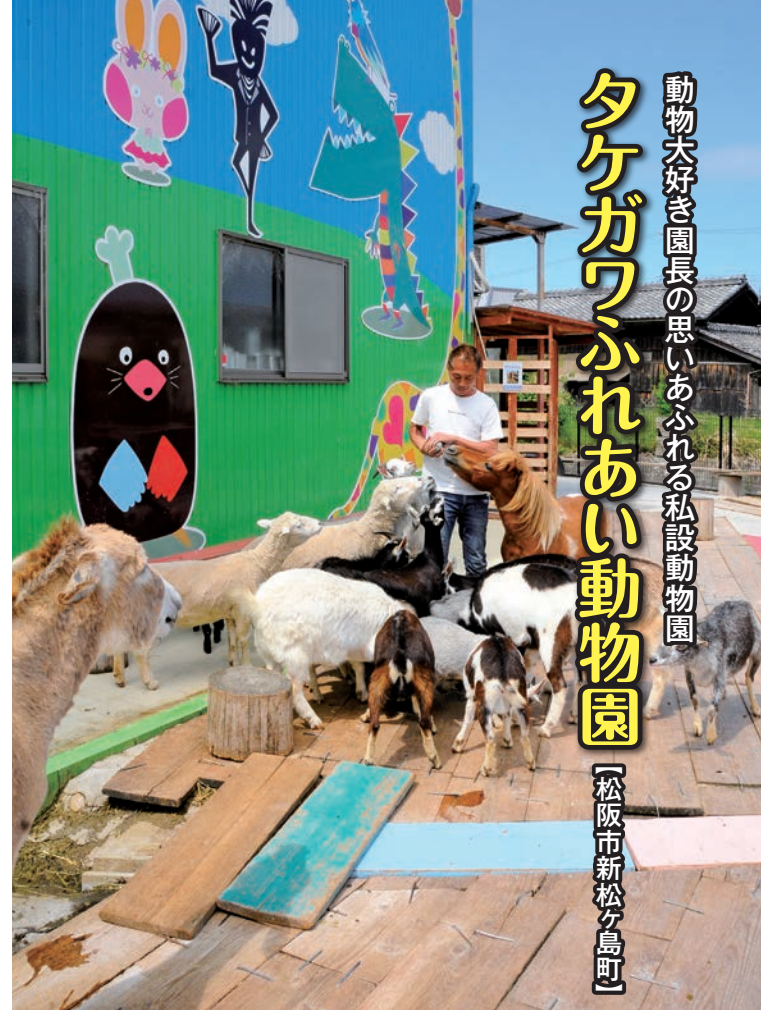
お問い合わせ

「四日市市ふれあい牧場」
TEL 059-329-3711

動物大好き園長の思いあふれる私設動物園

タケガワふれあい動物園

〔松阪市新松ヶ島町〕



竹川園長にヤギやミニチュアホースが集まってくる

住宅街の中に建つ塗装会社の敷地内に、カラフルな動物園があります。「タケガワふれあい動物園」は、私設の小さな動物園ですが、ミニチュアホースやロバ、ヤギ、ヒツジ、ウサギ、リクガメ、マイクログタ、シカ、アヒルなどたくさん動物と間近に触れ合える癒やしの空間

です。「有限会社タケガワ塗装」代表取締役で園長の竹川 直樹さんに案内していただきフェンスの中に入ると、すぐにミニチュアホースやヤギたちが集まって来て体をすり寄せます。サルや犬たちはそれぞれのケージに、草食動物たちは

一つの広い場所に一緒にいます。この園の大きな特徴は、動物たちのリラックした人懐こさと清潔さ。明るく掃除の行き届いた園内に毛並みの整った動物たちが、のんびり休んだり遊んだりしています。眠っている赤ちゃんヤギを撫でて嫌がるそぶりもありません。「動物同士で好きなように仲良くやっていますよ」と竹川さん。動物園を開いたきっかけを聞くと、「元々動物が大好きで、2019年にヤギを3頭とリクガメとで動物園を開いたんです。そうしたら皆さんがすごく喜んでくれたので、もっと楽しめたいと思ってミニチュアホースなどを加えました。その後、ヤギやウサギは子どもを産んで増え、サルやマイクログタなどは『飼えなくなっ



竹川園長に甘えるロバ

なりました。周りに民家も多いので、匂いや騒音には気をつけています。ごまめに掃除、何度でも掃除『ですよ』と、ヤギのフンを片付けながら笑顔で話してくれました。保健所の基準をクリアする施設を整え、常に清潔さを保つ努力が随所にしのべれます。

入園無料休み無しというのにも驚かされます。専門のスタッフもいて、餌代なども少額ではないはず。「世話は毎日するのですから、開けても休んでも同じなんです。経費はかなりかかりますが、寄付やグッズ販売などで何割かは助けられています。いろんな人に喜んで



入口にはミニ白バイや顔出しパネルが



赤ちゃんヤギはふわふわの毛並み



ミニブタと子ヤギも仲よし



ヤギやアヒルがのんびり遊ぶ



絵本のあるコーナー

らえるなら、厳しくても惜しいとは思わないんですよ」と竹川さん。入口近くには絵本のコーナーが設けられ、動物に関する内容の本を中心に、子どもたちが自由に見られるようになっていきます。ここにはハリネズミの飼われているケースがあり、小さなピンク色のどこでもドアなども置かれています。「大きな動物が苦手な子どもさんもありますので、そういう子はここで遊んでもらえるように」という竹川さんの配慮です。年に数回のイベントにも力を注ぎ、最近では警察の協力を得て交通安全イベ

ントを開いたそうです。入口横にある小さな白バイはそのときに作ったもの。「赤ちゃんヤギがいるときは、ミルクやり体験をしてもらったり、その時々状況に応じて色々なイベントや企画をしています。初めて来てもらった方は会員登録として住所などを書いてもらいますが(無料)、その後は自由に楽しんでもらえます」。全力で動物を愛する園長の思いがあふれる動物園です。

お問い合わせ

「有限会社タケガワ塗装」
TEL 0598-53-9000

自然の中で人も動物もゆつたり

五桂池ふるさと村

花と動物ふれあい広場

【多気郡多気町】



ダチョウの迫力に子どもたちもびっくり



カラフルなスワンボート



高校生レストラン「まごの店」



「マルシェ・グランマ」店内



バーベキュースペース

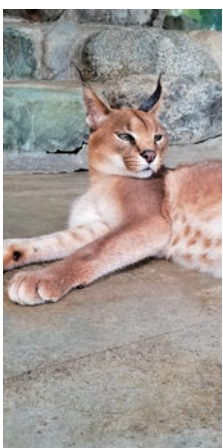
「五桂池ふるさと村」は、池に浮かぶスワンボートや、高校生レストランとして有名になった「まごの店」、おばあちゃんの店からリニューアルされた「マルシェ・グランマ」、バーベキュースペースなど、広い村内に多様な施設が点在しています。

その中にある「花と動物ふれあい広場」は、緑豊かな風景の中で動物たちに出会える動物園です。今は、ヒツジ、ダチョウ、カピバラ、プレーリードッグなど44種・200頭ほどの動物たちが飼育され、珍しいカラカルやマールラなどもいます。

園長の上野由紀子さんに代わり、飼育員の須崎茄也さんに案内していただいていると、まずウサギたちのエリア。隣にはシカやムフロンたちの小屋があり、その向かいにはダチョウが運動場を歩き来しています。この日は地元多気町の保育園の子どもたちが訪れ、ダチョウやミニチュアホースに歓声を上げていました。

そこから、ゆるやかに上る小径を辿っ

て行くと、ケヅメリクガメの家があり、次の「ふわふわルーム」にはモルモットやトカゲなどがいます。ここが一番人気はプレーリードッグのムチコちゃん。あどけない表情のせいか、ファンが多いそうです。さらに進むと、左手にはガチョウやクジャクなどが、右手にはワオキツネザルやミリアキヤットなどがいて、雄ヤギたちのいるエリアへ続きます。そこからマールラ、ニホンザル、稀少なカラカル、タヌキなどの家の前を通り、一番上が雌ヤギや雄ヒツジのいるエリア



ネコ科動物のカラカル ※ カピバラ ※

です。

動物に餌を

与えることも可能で、入口の受付の他、4か所に自動販売機があり、それぞれの動物に合う餌を



ヒツジに餌を与える須崎さん

買うことができます。「以前は餌やりだけでなく、ウサギなどはだっこしてももらえるような展示をしていましたが、今はお互いにとって、良い距離を取りたいと考えています。コロナ禍ということもあるのですが、人にとっても動物にとっても、どんな風に触れ合うのが最善かを考え、動物たちのことを、知ってもらうことを主眼にしています。おとなしいといわれている種類の動物にかまれることもありますし、小さな子どもさんは力加減が分からずに強く抱きしめてしまふようなことも起こりますので、それぞれの種類の特徴や、一頭ずつの個性に

ついても、まずは知っていただきたいと思っているんです」と須崎さん。そのため、ここに暮らす動物たちの一頭ずつすべての顔写真とともに性格や特徴などを書いた紹介プレートを張り出しています。「同じ年に生まれた雌ヤギでも、おとなしい子もいれば、やんちゃで柵を飛び越えてしまうような子もいて、どの動物も、みんなそれぞれ個性があつてかわいいですよ」。アニマルウェルフェア(動物福祉)の観点からも、動物たちが快適に過ごせるよう、飼育環境等にさまざまな工夫が重ねられています。

ダチョウの卵ペイント(個数に限り有り)などの体験もでき、不定期で図書館司書を招いて、動物の絵本を通して動物の福祉や環境問題などについて考えるような会も開かれています。

お問い合わせ

「五桂池ふるさと村」
TEL 05998-1399-38660
「花と動物ふれあい広場」
TEL 05998-1399-3780

※印の写真は取材先から提供していただきました

クジャクが出迎える寛ぎのスポット

市民の森公園

【鳥羽市大明東】



巨大なガリバーが目印の「市民の森公園」

鳥羽駅から南へ車で5分程の距離という交通の便のよいところに、憩いの場所「市民の森公園」があります。園内には大きなガリバーをモチーフとした遊具、広い芝生広場や緑に囲まれた散策路があり、その一面に無料の小動物園が設けられています。

青と緑の丸い模様が並ぶ羽根の美しいクジャクが20羽。シンボリックな羽根を広げる姿は求愛行動であり、繁殖期である春から夏に見られることが多いようです。クジャクの赤ちゃんが生まれると、別の小屋に移され、すくすく成長する様子が間近に見学できます。クジャクの隣には白いヤギが一

頭。柵の中で行ったり来たり、木陰で休んだり、人にも動じないので、子どもたちにも人気です。そして鳥小屋には3羽のセキセイインコ。その名称は背が黄色と青色になっていることに由来しています。

動物の世話には、シルバー人材センターから出勤する6人が、交代であたります。江崎 優さんと柘屋 終治さんから飼育担当としての業務を聞きました。朝は動物の朝食準備をして、清掃、餌やりをすませると、午後には学校給食で出る野菜の残りなどを回収に市内を走り、ときには畑で農作物を育てる人から連絡を受け、過剰分の引き取りに向いて、動物たちの餌を確保しています。

「子どもたちは『餌ちょうだい』ってここに来るんですよ。ヤギは目線の高さが子どもと同じで人懐っこいですし、食べてくれるとみんな喜んでいます」と江崎さん。保育園や養護施設などが遠足で利用することも多いようです。

「餌の食べが悪いとか、歩いている状

態を見て、いつもと違うなど健康状態はわかるものです」と柘屋さん。お二人は飼育について、専門的に学んだわけではないですが、長年ここに勤務する経験により、動物の状態を把握しています。かつては、ウサギやサルもいたようですが、現在は3種類。毎日ここを散歩で訪れる人の中には、動物との触れ合いを楽しみにしている人も多いようで、小動物園を持続していける運営が望まれています。

公園全体を管理するのは鳥羽市役所建設課管理係です。「昭和56（1981）年に供用が開始され、小動物園も当初か



青い羽根の美しいクジャク



愛くるしい動きのヤギ



3羽仲良くセキセイインコ



「鳥羽クラフト展」※

ら設置されています」と担当の蔵本隆世さん。また市民の森公園は通称「ガリバー公園」と呼ばれるほど、ガリバーのビジュアルはインパクトがあり、最近ではSNSで話題となるスポットとして人気があります。ガリバー遊具は、元々鳥羽港に係留されていた移民船の海洋パビリオン「鳥羽ぶらじる丸」の甲板に設置されていたもので、営業を終えてから昭和60（1985）年に公園にやってきました。

周囲でできる散策路ではウォーキングやランニングを楽しんだり、ラジオ体操のために毎朝やってくる人もいて、その人数がボードでカウントされています。また公園内ではさまざまな催しがあり、年に一度の「鳥羽クラフト展」は10月に開催されています（令和4年10月8・9日予定）。手作りの展示即売会で、陶芸やアクセサリー、洋服、木工品、皮製品など、魅力的な作品がずらりと並びます。周辺には、市立図書館、市民体育館などの施設やショッピングセンターもあり、休日になると多くの人々が賑わっています。

お問い合わせ

鳥羽市役所建設課管理係
TEL 0599-25-1171

※印の写真は鳥羽市観光協会から提供していただきました

保護された動物が生き生きと暮らす

大内山動物園

〔度会郡大紀町〕



ツキノワグマなど園内には約100種類の動物

全国的にも珍しい個人経営で運営する「大内山動物園」は、行き場をなくした動物たちを受け入れる貴重な保護施設としても知られています。元々は約50年前にオープンしましたが、前園長の脇正雄さんが平成20(2008)年に他界

し、閉園が危ぶまれていたところ、「生き物の命を助けたい」との想いで、現園長の山本清穂(せいこう)さんが再建を図りました。規模は大型動物園ほどではありませんが、動物たちが安心して暮らせる環境だということが、一目で伝わってきます。

カワウソなどの小動物がいます。またいくつかの動物には餌やり体験ができるので(1カップ100円)、子どもたちにも人気ですが、大人も喜んでカップを手に入れています。カップにはパンとニンジンが入っていて、動物によってエサの種類が違い、それぞれケージの前に張り出されています。土・日曜・祝日や行楽シーズンは動物の健康のために、餌の個数制限や販売時間が決められています。新しく建設された休憩室などにも地元で雇用するなど、地域の経済貢献にもつながっています。山本園長は名古

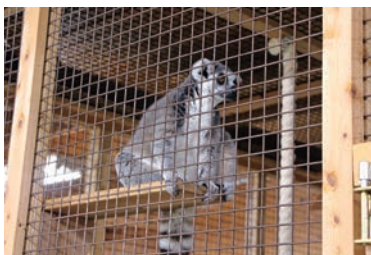
屋で設備関係の会社を経営しながら週に3日、大内山まで車を走らせました。「動物園で働く人は単に動物好きな人では困るんです。仕事は裏方。自分が癒されるのではなく、動物たちが心身ともに満たされることが何よりも優先されなければなりません。自分が檻の中に入ったとして、どうしてほしいかを考える。相手の立場に立てる、思いやりあるスタッフでないと務まりません」と飼育員としての心構えについて話しますが、厳しい口調には動物園経営に対する覚悟と情熱にあふれています。

「大内山動物園」
TEL 0598-721-2447

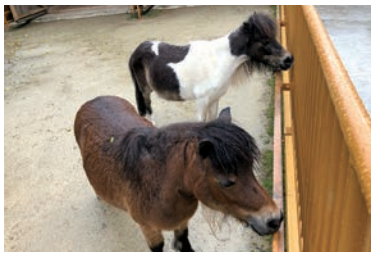
マリンランド」から、12羽のペンギンがやってきました。そのために、敷地を広げプールも造りました。山本園長は生き物を飼育する以上、中途半端なことほしなと決め、動物園を引き継いだ責任から、ゴルフとお酒を断ち切り、生活スタイルをがらりと変えたそうです。

より良い環境で動物たちが暮らせるよう、命と向き合い、今日も園内のどこかで改装や新たな施設の工事が進められています。

お問い合わせ



保護されたワオキツネザル



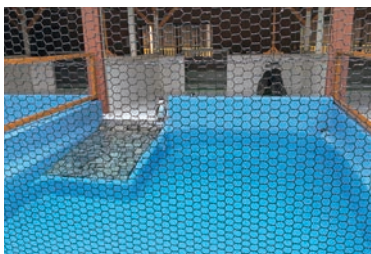
間近に見られるポニー



餌に集まるニホンシカ



ウッドデッキの憩いの広場



ペンギンの新しいプール

飼育する約9割が、怪我をしたり、殺処分を免れてやってきた動物たち。「保護された動物が元気になるのを見ると、やっぱりうれしいですね。怪我が治って飼い主に戻すこともあるんです」と園内を見て回る飼育員。山本園長の方針に共感し若いスタッフが全国各地から集まっています。

保護されると、まずは管理棟で飼育し、人に馴れさせることから始めます。管理棟内のケージは、壁に通路を設けてペランダの囲いに出ることができたり、ペランダに容易に出せるよう移動式になっていますが、これは動物の健康を考慮し、太陽の光を浴びて暮らせるための配慮です。

園内も手入れが行き届き、清潔で匂いもなく、温かみのある雰囲気です。ケージも十分な広さで、スタッフによるそれぞれの特徴を表したコメントからも、動物に対する愛情を垣間見ることが出来ます。ツキノワグマやライオンなどの大型動物のほかに、ウサギやアライグマ、